

第7章 不動通り地域生涯学習センターの創設

生涯学習が重要であるという認識が定着している。この理由は、生涯学習が人間にとって大切なことであることは言うまでもないが、平均寿命が長くなり、少子高齢化時代になってきていること、急速な情報技術の進歩によってもたらされた社会構造の変化もその理由である。

自治体は、生涯学習の推進及び実施の中核体である。一方、大学は、地域の生涯学習とのかかわり方を見直して、今後地域と協力して生涯学習の推進を強力に進めていく役割が期待されている。これらの観点から板橋区・大東文化大学共同研究地域デザインフォーラムでも、共同研究の発足当時から生涯学習関連の研究が進められている。

生涯学習関連研究成果は、地域デザインフォーラム・ブックレットで公表されている。一連の研究の足跡をみると、まちづくりとコミュニティ分科会の中で行われたアンケート分析である『板橋区民のコミュニティ意識調査』(No.2, 2003年)、板橋区と大東文化大学で行われている生涯学習講座と、高齢者対象とスキルアップのために開講されるすべての講座・講演会すべてについて検討を行った『板橋区と大東文化大学の地域に開かれた「知の資産」』(No.7, 2004年)、さらに、コミュニティ・カレッジ研究分科会に於いて『新しい市民大学をめざして』(No.12, 2005年)をまとめた。この研究に引きつづき、コミュニティ・カレッジについて検討が行われ、板橋区立短期大学設立の提案に至った『板橋コミュニティ・カレッジ構想』(No.16, 2006年)。

この章では、生涯学習の推進におかれている地域について、大東文化大学板橋校舎近辺での「元気な学生まちづくり」 μ 計画の

もとで、不動通り地域生涯学習センターの創設について考察をおこなう。

1 生涯学習論

生涯学習（しょうがいがくしゅう）とは、人が生涯にわたって学びと学習の活動を続けていくことである。1965年にユネスコの「第3回成人教育促進国際委員会」において、ポール・ラングランによって「生涯教育」（Education Permanente）が提案されたことが最初である。この委員会に出席していた波多野完治氏（お茶の水女子大学名誉教授・元学長）によって翻訳されて、1971年『生涯教育入門』が全日本社会教育連合会から出版された。波多野完治氏は心理学者であるが生涯学習の概念の日本への紹介で功績があった。ここで「生涯教育」という言葉がつかわれているが、ポール・ラングランの提案は生涯学習であった。近年、日本でも「生涯教育」から生涯学習に変更された。

日本での取り組みは1981年6月に、「生涯教育について」（中央教育審議会）が取りまとめられたのが最初である。その後、文部省（現：文部科学省）自治体で取り組みが開始された。国、東京都と板橋区の生涯学習への対処は前出の「新しい市民大学をめざして」（No.12, 2005年）の「第1章 生涯学習時代における試み」に詳しく記されているのでご参照ください。第1章の節は、1自治体の生涯学習システム、2板橋区における生涯学習の取り組みの変遷と現状、3他の自治体事例からなっている。生涯学習論については、数多くの研究者の研究がある。例えば、宮坂公作『生涯学習の創造 ー理論と実践ー』、日本社会教育学会編『講座現代社会教育の理論』成人の学習と生涯学習の組織化』などを参照ください。

生涯学習とは、人が生涯にわたって学びと学習の活動を続けて

いくことである。また、学ぶ場所は、学校だけでなく社会や職場など様々の所である。さらに、各自の意思で「自分で学ぶ」という行為、すなわち他人から指示されるのではなく、「各自が学習する内容を組み立てて意欲的に学習する活動」が教育の本来の姿と強調されるようになった。

2 板橋区役所での取り組み現状と問題点

板橋区でも多くの講座が開講されている。前出の『板橋区と大東文化大学の地域に開かれた「知の資産」』(No.7, 2004年)参照。板橋区の教育委員会生涯学習課ではこれらの講座をまとめた「いたばし学習・スポーツガイド」を発行している。このガイドは板橋区や区教育委員会等が開催する全講座を一覧できる冊子である。『2007いたばし学習・スポーツガイド《秋冬号》』毎年2回発行している。(発行部数、春夏号・秋冬号合わせて6,500冊)

「2007いたばし学習・スポーツガイド《秋冬号》」によれば、開催されているコース数は340になり、1コースで10回開講されている講座もあるので開催講座数は600を超えている。この中にはイベント「いたばし区民まつり」も含まれている。

前年度2006年度の主なイベントの参加人数を『平成18年度主要施策の成果』(東京都板橋区、平成19年9月発行)より抽出すると、8月に行われた花火大会では観客数52万人、10月に開催された区民まつりの来場者は45万人、10月から11月に開催された「いたばし区民文化際」は、参加者が6,980人で入場者は約22万人であった。平成19年3月18日開催されたマラソン参加申請者17,138人であった。これらのイベントでは区民が企画運営に積極的に参加協力している。こういった自主的活動も生涯学習に含まれるといえる。

また、「2007いたばし学習・スポーツガイド《秋冬号》」によれ

ば、生涯学習講座が開催されている会場は83箇所の施設であり、このうち5会場は板橋区内の大学公開講座である。講座数は5大学で5件であり、延べ参加者数は7,818人であった。

板橋区民のイベントや生涯学習講座にたいする関心は非常に高いことがわかる。しかし、板橋区で開催されている生涯学習講座は開催担当部署も多く、相互の関連がほとんどなく、受講生による企画講座もほとんどない状態である。

また、民間のカルチャーセンターとの競合問題などもあり、今後自治体として、どのような講座を開催していくか検討が必要である。

ここでは、板橋区高齢者大学校グリーンカレッジを詳しく報告する。

(1) 高齢者大学校グリーンカレッジ

高齢者（おおむね60歳以上）を対象に、定員は、今回は80人であるが毎年希望者が多いので抽選となっている。また、卒業生のうち希望はグリーンカレッジ大学院に進学する。最近の受講者数を表1に示す。

表1. グリーンカレッジ受講者数

高齢者大学校	平成16年度	平成17年度	平成18年度
大学参加者数	579	609	611
大学院参加者数	102	57	109

出典：板橋区「平成18年度主要施策の成果」

大学院修了後さらに希望者は、グリーンカレッジOB会の会員になることができる。OB会は設立後10年を迎えた。現在は、3支部4部（アウトドア部、文化部、パソコン部、クラシック部）からなる。最近の会員数は729名である。設立当初のOB会運

営は板橋区役所の援助であったが現在はすべて会員が運営し活発な活動をしている。グリーンカレッジOB会では、講座と講演会が定期的開催されている。すべての講座と講演会は会員の企画であり自主的な活動が行われているので、理想的な生涯学習といえる。

3. 大東文化大学での取り組み現状と問題点

大東文化大学地域連携センターで、オープンカレッジを開催している。2007年度後期で74講座が開講されている。講座の内容等はホームページを参照ください。2006年度は、年間154講座であった。会場は大東文化会館と板橋校舎・東松山校舎である。

オープンカレッジは、在学生から一般の方までを対象に、教養、歴史・考古学、芸術、健康・フィットネス、語学、資格受験対策などのコースの講座を開講している。さらに今後、開講講座数を増やす計画である。しかしながら現状では、主に大東文化大学の教員からの希望によって講座を開講している。若干の地域連携センター企画講座もあるが、このような方法では体系的な講座にはならない。また、受講生が希望講座を組み立てるようにはなっていない。

4 不動通り地域生涯学習センターの設立

自治体と大学が協働で講座を開講して生涯学習を行うことは、それぞれに求められている役割を果たす上でも大事である。生涯学習を推進するうえで地域学習センター設立は効果的である。2章・3章で検討した両者が抱えている問題も解決することが可能である。

受講生は単なる余暇や趣味といった学習からさらに進んで、今後は真剣に学ぶことも必要である。現状で開講されている板橋区

と大東文化大学の講座は継続して、不動通り地域学習センターの生涯学習講座一部として取り込み全体の開講講座体系を考えるべきである。

(1) 運営主体

不動通り地域学習センターの運営主体として、板橋区役所、大東文化大学、NPO設立の場合が考えられる。この中で板橋区役所と大東文化大学が、協働していくのはNPOによる運営がふさわしい。

財源は東京都、板橋区役所、大東文化大学からの補助金、企業からの寄付金、受講生からの受講料とする。受講生の所属する会社からの受講料補助制度も検討する。

ここでは、生涯学習講座開催だけでなく生涯学習の研究も行う。このため研究環境を整える。たえず行う研究は、受講生に良い生涯学習を提供することができる。

(2) 講座

開講講座は相互に関連を持って行う。すなわち1つの講座を修了した受講生がその講座に参加して得た知識の基で、次の講座にすすめるように配慮する。新規講座企画は、運営委員会を組織して、受講生からの希望も取り入れて決定する。

板橋区役所主催講座と大東文化大学講座を一部こちらに移すことも検討を行う。開講時刻・受講生の理解度等を考慮して受講生が参加しやすい時間帯と講義内容等を検討する。

受講生がさらに深く研究を行いたい場合には、大学や大学院に進学することになる。

(3) 評価

すべての開講講座の評価を行う。評価方法を統一してすべての

講座の評価を常に行う。受講生からの評価をアンケートで収集する。これらのデータは、不動通り地域学習センター生涯学習研究部署でただちに整理・検討を行う。

(4) 施設

事務室と教室、レストランを備えている。運動やダンスを行えるスタジオ、図書館なども検討する。レストランは、住民と学生が気軽に利用できるように考慮する。

また、総合ビルとして喫茶店、英国式パブなどのテナントを検討し、多くの利用人数を見込む。学生が利用することによって地域の活性化にも貢献できる。施設の場所は、学生と勤め帰りの方が利用しやすいように、不動通りに面していることを考える。この目的のビルを不動通りに新設することが必要である。旧ビルでこの目的に合致した立地条件で可能な物件があるかも検討する。

教室が不足する場合には、大東文化大学板橋校舎、大東文化会館を利用する。

5 おわりに

本章では、生涯学習をおこなうために、NPOによる不動通り地域学習センター創設の提案をおこなった。板橋区役所と大東文化大学が積極的に運営に参加することにより、板橋区役所としては住民が生涯学習を行う際の支援する役割を果たし、大東文化大学は、より一層地域にたいする貢献を高める役割を果たすことになる。

さらに、不動通りに地域学習センターを設立することにより、地域の活性化につながり、学生もより豊かな学生生活を送ることができるようになる。

参考文献

1. ポール・ラングラン、『生涯教育入門』波多野完治訳、全日本社会教育連合会、1971年。
2. 宮坂公作『生涯学習の創造 ー理論と実践ー』明石書店、2002年
3. 大東文化大学・板橋区地域デザインフォーラム『板橋区民のコミュニティ意識調査』ブックレットNo.2、2003年。
4. 日本社会教育学会編『講座 現代社会教育の理論 成人の学習と生涯学習の組織化』、東洋館出版社、2004年。
5. 大東文化大学・板橋区地域デザインフォーラム『板橋区と大東文化大学の地域に開かれた「知の資産」』ブックレットNo.7、2004年。
6. 大東文化大学・板橋区地域デザインフォーラム『新しい市民大学をめざして』ブックレットNo.12、2005年。
7. 大東文化大学・板橋区地域デザインフォーラム『板橋コミュニティ・カレッジ構想』ブックレットNo.16、2006年。
8. 板橋グリーンカレッジOB会『10年のあゆみ』2007。
9. 東京都板橋区『平成18年度主要施策の成果』2007。
10. 板橋区教育委員会生涯学習課『2007 いたばし学習・スポーツガイド《秋冬号》』板橋区、2007。

・大東文化大学地域連携センターオープンカレッジ・ホームページ
(2007年10月31日現在)

<http://www2.daito.ac.jp/jp/modules/continuing/index.php/J11-00-00-01>